令和 9 年度（2027 年度）

京都市立芸術大学音楽学部入学試験　試験内容及び課題曲

入学試験に関わる提出物やプレゼンテーションの準備に当たっては、「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」を確認し、不正が疑われたり、入学後に学修上のミスマッチが起きたりしないよう、自らの責任のもと作成するようにしてください。
※必要となる提出物やプレゼンテーションの有無は志願する専攻によって異なります。各専攻の試験内容をよく確認してください。

第一次試験（音楽学専攻以外の専攻）

作曲専攻 1
指揮専攻 3
ピアノ専攻 3
弦楽専攻 4
＊ヴァイオリン 4
＊ヴィオラ 5
＊チェロ 5
＊コントラバス 6
管・打楽専攻 7
＊フルート 7
＊オーボエ 7
＊クラリネット 7
＊ファゴット 7
＊サクソフォン 7
＊ホルン 7
＊トランペット 8
＊トロンボーン 8
＊バス・トロンボーン 8
＊ユーフォニアム 8
＊チューバ 8
＊打楽器 8
打楽器（A） 9
打楽器（B） 9
声楽専攻 9
＊伴奏用楽譜について 10

第一次試験（音楽学専攻）

・英語（試験時間 1時間40分、300点） 11
・事前提出物（与えられた課題に関する研究レポート、100点） 11
＜PDFファイルの提出方法＞ 11
＜その他注意事項＞ 11

第二次試験（音楽学専攻以外の専攻）
1　試験内容 12
2　副科ピアノについて（作曲、指揮、弦楽、管・打楽、声楽） 12
＜動画の提出方法＞ 12
＜動画について＞ 13
＜採点について＞ 13
＜その他注意事項＞ 13
第二次試験（音楽学専攻）
口頭試問（900点） 14

令和 9 年度（2027 年度）

音楽学部入学試験　第一次試験（音楽学専攻以外の専攻）

作曲専攻

（第 1 日）1. 和声法（試験時間各 2 時間 30 分）

A　バ　　ス課題：与えられたバスに和声をつけ、4 声体とすること。

B　ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ、4 声体とすること。

両課題とも記譜は次の a または b のいずれかを選択すること。

a　ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b　ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施記譜例（a、b による記譜）は別記のとおり。

2. 作品提出

自作品を 1 曲以上、試験当日に提出すること。なお、提出された作品は返却しないので、コピー譜を提出すること。

（第 2 日）3. 二声対位法（試験時間 2 時間）

与えられた全音符の定旋律に対旋律をつくること。対旋律は、2 分音符、4 分音符、8 分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の（1）～（6）の 6 通りが必要である。

（1）：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。

（2）：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。

（3）：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。

（4）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。

（5）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。

（6）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は次の a または b のいずれかを選択すること。

a　ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b　ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施例（b による記譜）は別記のとおり。

4. 作曲（試験時間 4 時間 30 分）
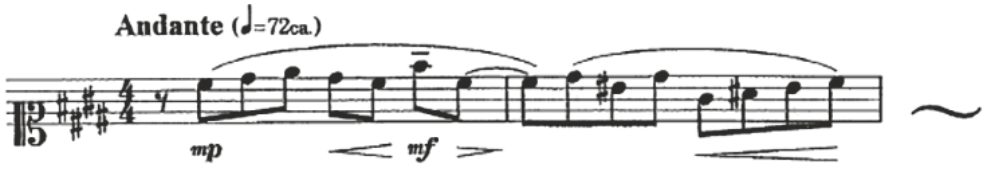
与えられた素材により器楽曲を作曲すること。

（第 3 日）5. 面接

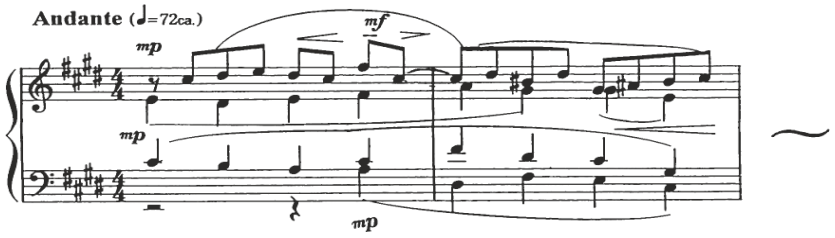
各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻（第 1 日）和声法の実施例
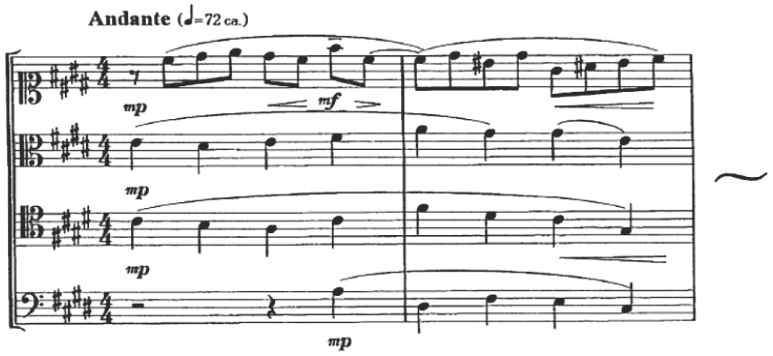
＊課題｛過去の出題（ソプラノ課題）より冒頭 2 小節｝



＊記譜 a による実施例
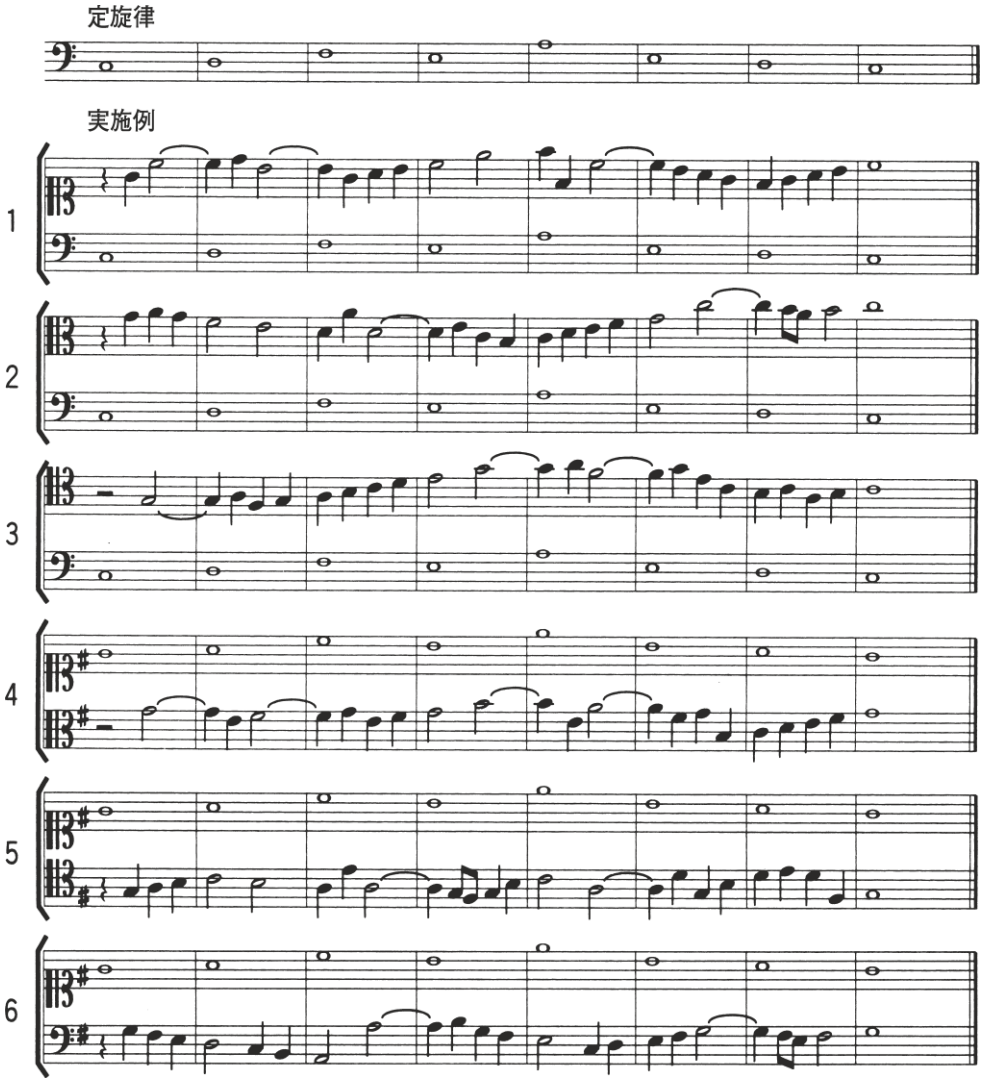


＊記譜 b による実施例



◎作曲専攻（第 2 日）二声対位法の実施例

＊記譜 b による実施例



指揮専攻

・和声法（試験時間 2 時間 30 分）

与えられたバスとソプラノの旋律に和声をつけ、4 声体とすること。

（記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。）

・実技試験

1　下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。（演奏は二台ピアノによる）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲　第 1 番　ハ長調　作品 21 より第 1 楽章、第 4 楽章

（イ）P. I. Tchaikovsky：弦楽のためのセレナーデ　作品 48 より第 2 楽章 ワルツ

上記、出版社は自由とする。

2　下記の楽曲による総譜視奏（スコアリーディング）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲　第 7 番　イ長調　作品 92 より第 2 楽章

（イ）初見視奏（当日提示する管弦楽曲）

3　既に習得している楽器（ピアノ、弦楽器、管打楽器、ハープのうちいずれか 1 つ）若しくは声楽を演奏すること。その場合、楽器は各自持参すること。ただし、コントラバス、ハープについては、楽器を持参できない場合は、本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。マリンバについては、本学で用意する楽器を使用すること。

なお、声楽を除きすべて無伴奏とし、演奏曲目をインターネット出願登録時に入力すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も、第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。

※声楽選択者の伴奏用楽譜について

声楽を選択する場合、伴奏用楽譜を出願の際 1 曲につき 2 部ずつ提出すること。

・1 ページの大きさはA4 判とし、各ページが全開するよう横一連に綴じること。

・表紙には曲名、調、氏名を明記すること。（表紙の右上部分には何も書かないこと。）

・印刷した Web 入学志願票等の必要書類とともに封筒に入れ、出願期限までに**「簡易書留・速達」**で郵送すること。

4　面接を行う。

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

（第 1 日）1　ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

（第 2 日）2　任意の作曲家による練習曲を 2 曲選択し、第 1 日目に本人による抽選で、演奏する 1 曲を決定する。

3　J. Haydn または W. A. Mozart または L. v. Beethoven の任意のソナタ 1 曲全楽章を選択し、第 1 日目に本人による抽選で、演奏する（1 つの、あるいは複数の）楽章を決定する。

※注意　（1）いずれも暗譜演奏すること。

（2）繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。

（3）拡張奏法や内部奏法を含む作品及び自作曲は除く。楽譜の入手が困難な作品については楽譜の提出を求める場合がある。

（4）演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名をインターネット出願登録時に入力すること。

（5）1 について、7 分以上 12 分程度までとする。

（6）1 について、変奏曲の抜粋は認めない。
（7）2 について、同じ作曲家による 2 曲を選択することも、異なる作曲家による 2 曲を選択することも可とする。
（8）時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

※注意　（1）選択した曲目及び調名をインターネット出願登録時に入力すること。
（2）全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。（繰り返し及びダ・カーポはしない。）
（3）コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。
（4）時間の都合上カットすることがある。

＊ヴァイオリン

（第 1 日） 下記の中から、いずれか 1 曲を選択し、その第 1 楽章と第 2 楽章（ただし Lalo のスペイン交響曲においては第 1 楽章と第 4 楽章）を演奏すること。

M. Bruch：協奏曲　第 1 番　ト短調　作品 26
A. Dvořák：協奏曲　イ短調　作品 53
（Adagio ma non troppo から Finale の前までを第 2 楽章とする。）
E. Lalo：スペイン交響曲　ニ短調　作品 21
F. Mendelssohn：協奏曲　ホ短調　作品 64
N. Paganini：協奏曲　第 1 番　ニ長調　作品 6
（オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。）
C. Saint-Saëns：協奏曲　第 3 番　ロ短調　作品 61
J. Sibelius：協奏曲　ニ短調　作品 47
P. Tchaikovsky：協奏曲　ニ長調　作品 35
（第 1 楽章はカデンツァの前まで演奏すること。）
H. Vieuxtemps：協奏曲　第 4 番　ニ短調　作品 31
H. Vieuxtemps：協奏曲　第 5 番　イ短調　作品 37
（カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第 2 楽章とする。）
H. Wieniawski：協奏曲　第 1 番　嬰ヘ短調　作品 14
（第 1 楽章はカデンツァの前まで演奏すること。）
H. Wieniawski：協奏曲　第 2 番　ニ短調　作品 22

（第 2 日） 1　C. Flesch：Scale System より No.5、6、7、8、9、10 ただし No.6～No.9 は最初の 4 小節のみとする。
○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。
○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8、9、10 は 4 分音符単位（16 分音符 4 個分）で、スラーをかけることとする。
○速度は No.5 はメトロノームで 4 分音符＝80 以上、No.6～10 は 8 分音符＝60 以上で演奏すること。

2　下記の中から、いずれか 1 曲を選択し、演奏すること。

P. Rode：24Caprices

J. Dont：Etüden und Capricen　作品 35

N. Paganini：24Caprices　作品 1（ただし 17 番冒頭及び 24 番の繰り返しはすること。）

＊ヴィオラ

（第 1 日） 下記の中から、いずれか 1 曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz：協奏曲　ニ長調　作品 1　第 1 楽章及び第 2 楽章（ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。）

A. Hoffmeister：協奏曲　ニ長調　第 1 楽章及び第 2 楽章（ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。）

M. Reger：Suite　作品 131d No.1 第 1 楽章及び終楽章

（第 2 日） 1　C. Flesch：Scale System より No.5、6、7、8

ただし No.6、7、8 は最初の 4 小節のみとする。

〇調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

〇リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8 は 8 分音符単位（16 分音符 2 個分）で、スラーをかけることとする。

〇速度は任意である。

2　B. Campagnoli：41 Caprices　作品 22 より任意の 1 曲を選択し演奏すること。（版は自由とする。）

＊チェロ
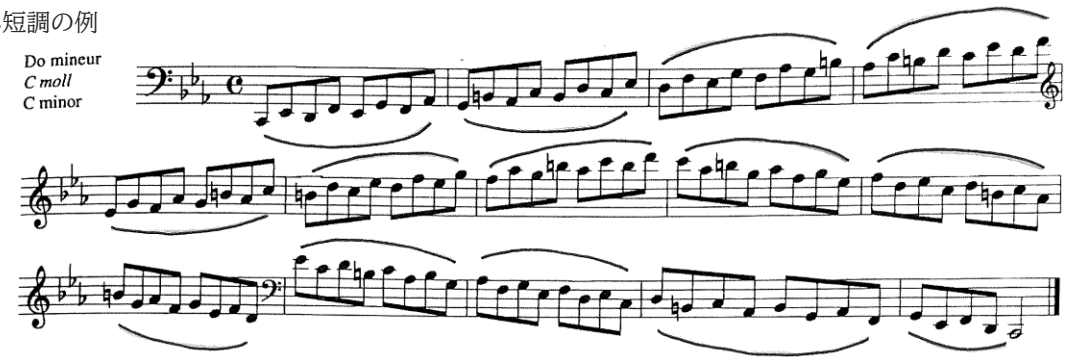
（第 1 日） 任意の協奏曲より第 1 楽章または最終楽章を演奏すること。

（第 2 日） 1　J. Loeb の Gammes et arpèges（Billaudot 版）を参照のうえ、下記（a）から（f）までの課題を演奏すること。調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

（a）4 オクターヴにわたる単音の音階（スラーは 1 弓 8 音♩＝80 以上）

（b）4 オクターヴにわたる単音分散 3 度の音階（スラーは 1 弓 8 音♩＝80 以上）

ハ短調の例



（c）4 オクターヴにわたるアルペジオ（スラーは 1 弓 6 音♩＝60 以上）

（d）2 オクターヴにわたる重音 3 度の音階(スラーは自由」♩=60 前後)

（e）2 オクターヴにわたる重音 6 度の音階(スラーは自由」♩=60 前後)

（f）2 オクターヴにわたる重音 8 度の音階(スラーは自由」♩=60 前後)

（注）（d）（e）（f）の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2　J. Duport：Etudes より任意の 1 曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

＊コントラバス
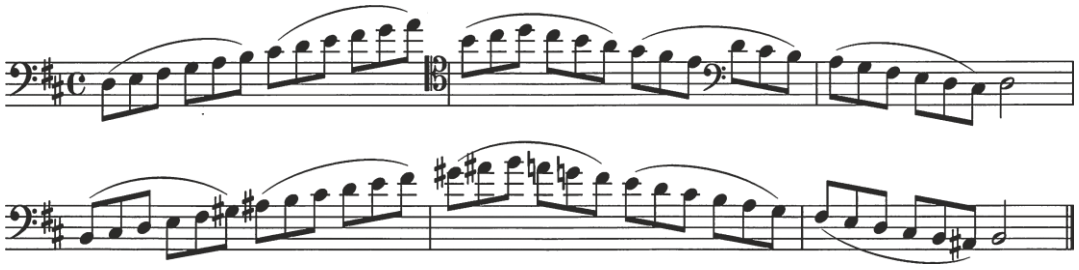
（第 1 日） 任意のソナタの第 1 楽章及び第 2 楽章または協奏曲の第 1 楽章を演奏すること。

（第 2 日） 1　下記（a）～（d）までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。
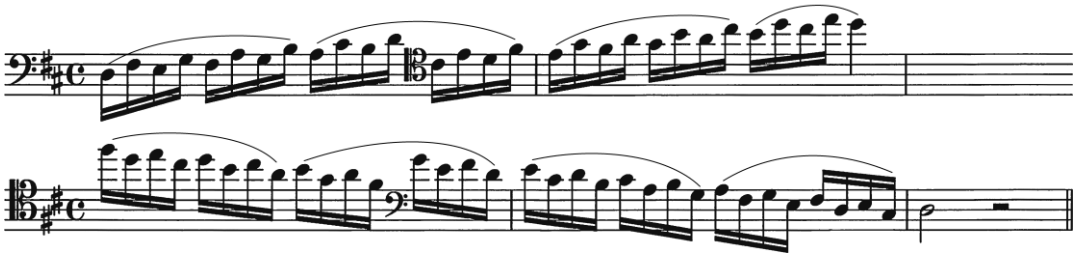
2 F.SIMANDL/30 ETUDES for the STRING BASS より No.17

(Carl Fischer 版を使用すること。フィンガリング、ダイナミックスは自由とする。)
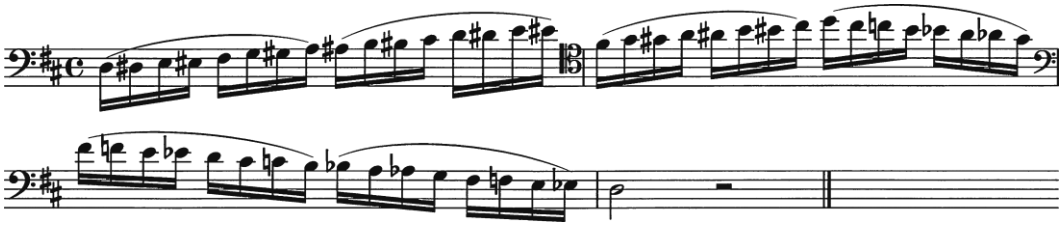
（a）
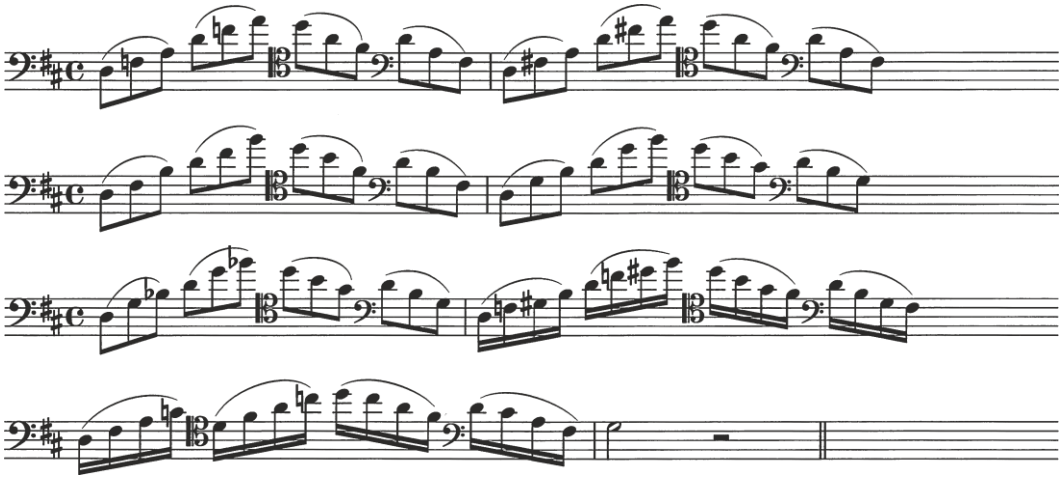


（b）



（c）



（d）



管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

※注意　（1）下記の第 1 日の暗譜演奏の指示のない課題曲の楽譜は各自持参すること（本学で楽譜は用意しない。）。
（2）下記の第 2 日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること（繰り返しはしない。）。
（3）伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
（4）時間の都合上カットすることがある。

＊フルート

（第 1 日） J. Andersen： 24 Etudes for Flute op.21 より、第 1 番、第 4 番、第 11 番、第 13 番、第 18 番、第 24 番の中から当日指定する曲（版の指定なし）

（第 2 日） W. A. Mozart：協奏曲　第 1 番　ト長調　K.313（K6.285C）第 1 楽章（カデンツァを除く。）

＊オーボエ

（第 1 日） W. Ferling：48 Etudes op.31（Gerard Billaudot 版または全音楽譜出版社）より第 1 番、第 9 番、第 10 番、第 30 番、第 42 番の中から当日指定する曲

（第 2 日） W. A. Mozart / 協奏曲 ハ長調 K. 314 (K. 285d) より第 1 楽章（第 26 小節の 2 拍目から第 97 小節 1 拍目まで）と第 2 楽章（第 7 小節から第 40 小節 1 拍目まで）。どちらの楽章もカデンツァなし。（ベーレンライター版またはヘンレ版）

＊クラリネット

（第 1 日） C. Rose：32 Etudes（Alphonse Leduc 版）より第 6 番、第 9 番、第 14 番、第 15 番 第 17 番、第 20 番、第 23 番、第 26 番、第 27 番、第 30 番の中から当日指定する曲（繰り返しなし）

（第 2 日） 1　R. Eichler：Scales for Clarinet（KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC）の各調 1・2 番を範囲とし、当日指定する調を暗譜で演奏すること（レガート、スタッカートいずれかの指示をします。）
2　Carl Maria von Weber：Concertino Es-Dur 作品 26（版の指定なし）

＊ファゴット

（第 1 日） J. Weissenborn：Fagott Studien 作品 8 第 2 巻より第 1 番から第 15 番までの中から当日指定する曲（繰り返しなし、版の指定なし）

（第 2 日） G. P. Telemann：Sonata f-moll　第 1 楽章、第 2 楽章（繰り返しなし、版の指定なし）

＊サクソフォン

（第 1 日） W. Ferling：48 Etudes pour tous les saxophones（Alphonse Leduc 版）より
①第 1 番、第 17 番、第 19 番、第 27 番、第 49 番の中から 1 曲（当日指定）
②第 8 番、第 26 番、第 32 番、第 38 番、第 40 番の中から 1 曲（当日指定）

（第 2 日） A. Grazounov：Concerto en mi bemol（Alphonse Leduc 版）冒頭から練習番号第 16 番まで演奏すること。

＊ホルン

（第 1 日） C. Kopprasch：Sixty Selected Studies（C. Fischer 版、繰り返しなし）より第 7 番、第 12 番、第 13 番、第 15 番、第 16 番、第 19 番、第 22 番、第 23 番、第 24 番、第 25 番、第 27 番、第 28 番の中から当日指定する曲

（第 2 日） W. A. Mozart：協奏曲　第 4 番　変ホ長調　KV.495（版の指定なし）より第 1 楽章（カ

デンツァなし)、第 2 楽章、及び第 3 楽章（第 99 小節目まで）

＊トランペット

（第 1 日） Oskar Böhme：24 Melodic Studies in all tonalities Opus. 20 (出版社は指定しない)より当日指定する音階と曲を Bb トランペットで演奏すること。
＊音階は繰り返しすることとし、最初はレガート、繰り返し時はマルカートで最後の分散和音まで一息で演奏すること。

（第 2 日） Oskar Böhme：Ballet Scene Opus. 31（Hickman Music Editions 版）
Bb トランペットで演奏すること。
＊Ossia.については下記の通り演奏すること。
19, 30, 34, 42～43小節目は下段
147,151, 169～170, 288小節目は上段

＊トロンボーン

（第 1 日） Kopprasch：60 Etudes for Trombone（全音楽譜出版社）より
第 7 番、第 10 番、第 11 番、第 13 番、第 15 番、第 16 番、第 17 番、第 18 番、第 19 番、第 20 番、第 21 番、第 25 番、第 38 番、第 39 番の中から当日指定する曲（繰り返しなし）

（第 2 日） F. David：Konzertino 変ホ長調 Op.4 第 1 楽章（Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏）

＊バス・トロンボーン

（第 1 日） Kopprasch：60 Etudes for Trombone（全音楽譜出版社）より第 11 番、第 17 番、第 20 番、第 21 番、第 25 番、第 26 番、第 32 番の中から当日指定する曲（繰り返しなし。第 17 番はオクターブ下で演奏すること）
Ostrander：Melodious Etudes for Bass Trombone（C. Fischer 版）より
第 6 番、第 10 番、第 16 番の中から当日指定する曲

（第 2 日） F. David：Konzertino　変ロ長調　第 1 楽章（Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏）

＊ユーフォニアム

（第 1 日） 1　J. B. Arban:Fourteen Characteristic Studies より第 2 番、第 4 番、第 6 番、第 8 番 から当日指定する曲（版の指定無し）
2　Marco Bordogni:Melodious Etudes for Trombone より第 4 番、第 6 番、第 8 番、第 10 番、第 12 番の中から当日指定する曲（版の指定無し）

（第 2 日） P. V. De la Nux：Solo de Concours pour Trombone et Piano （Leduc 版）、 Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano（Southern music company 版）（どちらの版でもよい）

＊チューバ

（第 1 日） 1　C. Kopprasch：60 Selected Studies より第 5 番、 第 7 番、 第 8 番、第 9 番、 第 10 番、第 11 番、第 12 番、第 13 番、第 14 番、第 15 番の中から当日指定する曲
2　M. Bordogni：43 Bel Canto Studies より第 2 番～第 10 番の中から当日指定する曲

（第 2 日） W. S. Hartley：Suite for Unaccompanied Tuba（Elkan-Vogel 版）より第 1 楽章、第 2 楽章、第 4 楽章

＊打楽器

打楽器（A)、打楽器（B）のいずれかを選択して演奏すること。(A、B いずれを選択したか、また

A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏、座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。）

打楽器（A）

（第１日） （ア）A. J. Cirone：Portraits in Rhythm より、第 6 番、第 15 番の中から当日指定する曲

（イ）Heinrich Knauer：Kleine Trommelschule（Friedrich Hofmeister Musikverlag）より、第 25 番、第 28 番、第 29 番、第 30 番の中から当日指定する曲

（ウ）下記の楽曲の中から一曲（パルティータ 第 2 番以外の 5 曲は全楽章）を選択し、本学で用意するマリンバで演奏すること。

版の選択は任意。暗譜で演奏すること。

J. S. Bach：ソナタ　第 1 番　ト短調　BWV1001

J. S. Bach：パルティータ　第 1 番　ロ短調　BWV1002

J. S. Bach：ソナタ　第 2 番　イ短調　BWV1003

J. S. Bach：パルティータ　第 2 番　ニ短調　BWV1004 より Ciaccona のみ

J. S. Bach：ソナタ　第 3 番　ハ長調　BWV1005

J. S. Bach：パルティータ　第 3 番　ホ長調　BWV1006

（第２日） 第 1 日目の（ウ）に同じ

打楽器（B）

（第１日） （ア）A. J. Cirone：Portraits in Rhythm より、第 6 番、第 15 番の中から当日指定する曲

（イ）Heinrich Knauer：Kleine Trommelschule（Friedrich Hofmeister Musikverlag）より、第 25 番、第 28 番、第 29 番、第 30 番の中から当日指定する曲

（ウ）Siegfried Fink：Trommel-Suite より　Intrada Toccata Mista Marcia（暗譜で演奏すること。）

（エ）J. S. Bach：パルティータ　第 3 番　ホ長調　BWV1006 より　Bourée Gigue（本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。）

（第２日） 第 1 日目の（ウ）に同じ

声楽専攻

（第１日） 自由曲：歌曲あるいはアリア 1 曲（宗教曲も含む）。演奏時間は 4 分程度とする。
ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。

（第２日） 課題曲：下記の 15 曲の中から各自 4 曲を選ぶこと。その中から当日 2 曲を指定する。

（1）	F.Gasparini	Lasciar d'amarti
（2）	F.Durante	Vergin,tutto amor
（3）	G.B.Pergolesi	Se tu m’ami
（4）	G.Paisiello	Nel cor più non mi sento
（5）	G.Giordani	Caro mio ben
（6）	M.A.Bononcini	Pastorella,spera,spera
（7）	G.B.Bassani	Dormi,bella
（8）	F.P.Tosti	Sogno
（9）	S.Donaudy	Sento nel core
（10）	V.Bellini	Vaga luna,che inargenti

（11） G.Donizetti Eterno amore e fè
（12） F.Schubert An die Musik
（13） R.Schumann Widmung
（14） 山田耕筰 唄
（15） 中田喜直 むこうむこう

※注意 （1）試験の際の演奏は暗譜とする。
（2）曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
（3）自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
（4）選択した曲名、作曲者名及び調性をインターネット出願登録時に入力すること。（提出後の調性の変更は認めない。）
（5）自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
（6）伴奏者は、両日とも本学において準備するので、同伴しないこと。

＊伴奏用楽譜について

自由曲及び課題曲のためのピアノ伴奏用楽譜は、各自選択した調性の楽譜を、印刷したWeb入学志願票等の必要書類とともに1曲につき2部ずつ出願期限までに「簡易書留・速達」で郵送すること。（自由曲2部、課題曲8部、計10部）

【注意事項】

（1）1 ページの大きさは、A4 判（297mm×210mm）にすること。
（2）各ページが全開するよう横一連に綴じること。その際、テーピングにはマスキングテープを使用すること（セロテープは不可）。
（3）表紙に第 1 日・第 2 日の別、曲名、調性、氏名を明記すること。
（4）台紙として、厚紙などの別紙は貼り付けないこと。また、表紙の右上部分には何も書かないこと。

(3)の記入例

伴奏用楽譜表紙

第2 日 課 題 曲
G. Giordani
Caro mio ben（〇〇調）
芸大　和音

令和 9 年度（2027 年度）

音楽学部入学試験　第一次試験（音楽学専攻）

・英語（試験時間 1時間40分、300点）

英語の長文を読んだうえで、自分の考えを日本語で論じるなど、小論文的な要素を含む。
英和・和英辞書の持込可、電子辞書の持込可。ただし、通信機能のないものに限る。
なお、第 1 問を 40 分、第 2 問を 60 分と設定し、第 1 問と第 2 問の間に 15 分間の休憩を設ける。
第 2 問では、日本語による英文要約および小論文的な要素を含む。

・事前提出物（与えられた課題に関する研究レポート、100点）

課　　題：自分の関心に沿って、音楽や音、あるいはそれらの文化について具体的な問いを立て、調査・分析・考察等を行ったうえでまとめなさい。具体的な問いを立て、結論を提示すること。なお、本文中で図表や譜例等を用いても構わない。

様　　式：A4 サイズ（原稿の向きは縦、文字は横書き。上下左右に余白 3cm 程度設定すること）、明朝体（日本語）、11 ポイント、40 字×30 行、PDF 形式（手書きで作成せず、パソコン等を使用すること）

文 字 数：2,000 字程度（図表、譜例、注、参考文献は字数に含まない）

＜PDFファイルの提出方法＞

・Dropbox のファイルリクエスト機能により提出すること。
ファイルをアップロードするためのリンクを、令和 9 年 2 月 19 日（金）までに出願時に登録しているメールアドレスに送付します。
メールで送付したリンクを開くとアップロード画面に移るので、提出したい PDF ファイルを選択してアップロードしてください。
なお、PDF ファイルのアップロードにあたり、Dropbox のアカウントを作成したり、アプリをインストールしたりする必要はありません。
メールが 2 月末までに届かない場合は、電話等により教務学生課入試担当まで問い合わせること。

・PDF ファイルのタイトルは、「事前提出物. 受験番号. 受験者氏名」とすること。なお、受験番号は半角数字とすること。

（例）事前提出物. 27001. 芸大和音

・PDF ファイルの提出期限は、令和 9 年 3 月 3 日（水）18 時 00 分 00 秒とする。
（特別な事情がなく、上記期限までに PDF ファイルのアップロードの完了がなかった場合は、受験を認めません。提出物の容量が大きい場合、アップロードが完了するまでに時間が要することがあります。余裕をもって提出してください。）

＜その他注意事項＞

・インターネット出願時に登録したメールアドレスで「@kcua. ac. jp」のドメインからのメールを受信できるように設定すること。

・可能であれば、キャリアメール（NTT ドコモ、ソフトバンク、au 等）以外のメールアドレスを使用することが望ましい。

・Dropbox の利用方法に関する問い合わせには一切応じません。

令和 9 年度（2027 年度）

音楽学部入学試験　第二次試験（音楽学専攻以外の専攻）

1　試験内容

専攻	音楽通論	聴音書取 （旋律・和声）	新曲視唱	コールユーブンゲン視唱 （全訳書第1巻より当日1曲指定）	副科ピアノ	ピアノ 新曲視奏
作曲専攻	●	●	●		●	
指揮専攻	●	●	●		●	
ピアノ専攻	●	●	●			●
弦楽専攻	●	●	●		●	
管・打楽専攻	●	●	●		●	
声楽専攻	●	●	●	●	●	

2　副科ピアノについて（作曲、指揮、弦楽、管・打楽、声楽）

副科ピアノの課題曲については、次のとおりとします。

1　音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を事前に指定する。
（音階指定は令和 9 年 2 月 19 日（金）までに、出願時に登録しているメールアドレスに送付します。）
速度は♩＝76M.M.以上。

ハ長調　　ト長調　　ニ長調　　イ長調　　ヘ長調　　変ロ長調　　変ホ長調
イ短調　　ホ短調　　ロ短調　　嬰ヘ短調　　ニ短調　　ト短調　　ハ短調

（注）ハノン第 39 番による。長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。
短調は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。

2（A）J. S. Bach：平均律クラヴィーア曲集　第Ⅰ巻より　第 6 番　ニ短調　BWV851

（B）J. S. Bach：2 声のインヴェンション BWV772～786　より 1 曲又はシンフォニア（3 声のインヴェンション）BWV787～801 より 1 曲を自由選択。ただし、インヴェンション第 10 番ト長調、シンフォニア第 5 番変ホ長調、シンフォニア第 6 番ホ長調を除く。

（C) Bartók：ミクロコスモス Sz.107　第II巻より　第 50 番「メヌエット」

（注）※作曲及び指揮専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は（A）（B）の中から 1 つを選択し、演奏すること。
※弦楽、管・打楽及び声楽専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は（A）（B）（C）の中から 1 つ を選択し、演奏すること。
※全て暗譜で演奏すること。（繰り返しはしない。）

＜動画の提出方法＞

・Dropbox のファイルリクエスト機能により提出すること。
動画ファイルをアップロードするためのリンクを、令和 9 年 2 月 19 日（金）までに出願時に登録しているメールアドレス に送付します。
メールで送付したリンクを開くとアップロード画面に移るので、提出したい動画ファイルを選択してアップロードしてください。

なお、動画ファイルのアップロードにあたり、Dropbox のアカウントを作成したり、アプリをインストールしたりする必要はありません。
メールが 2 月末までに届かない場合は、電話等により教務学生課入試担当まで問い合わせること。

・動画はピアノ専攻及び音楽学専攻志願者を除く受験者全員が提出すること。
・動画は mp4 形式で作成し、タイトルは、「副科ピアノ. 受験番号. 受験者氏名」とすること。
なお、受験番号は半角数字とすること。
（例）副科ピアノ. 21001. 芸大和音
・動画の提出期限は、令和 9 年 3 月 3 日（水）18 時 00 分 00 秒とする。
（特別な事情がなく、上記期限までに動画のアップロードの完了がなかった場合は、それ以降の試験の受験を認めません。提出物の容量が大きい場合、アップロードが完了するまでに時間が要することがあります。余裕をもって提出してください。）

＜動画について＞

・動画の収録においては、課題曲演奏前に受験番号を言うこと。なお、受験番号は動画で聞きとれるように、大きな声ではっきり言うこと。
・カメラアングルは固定し、演奏者の顔と手元が常に明確に映ること（全て暗譜で演奏すること）。
・動画は本学入学試験のために収録したものとし、編集や加工は一切禁止する。また、提出後の差し替え・変更は認めない。
・ビデオカメラに音声ボリュームを自動的に調節する機能がついている場合は、演奏の抑揚がなくなるため、使用しないこと。また、音量が極端に小さい、あるいは大きい、また雑音が入ったりしないように収録すること。
・映像と音声は同時に収録すること。映像と音声が一致していない場合や、映像や音声を加工したと判断した場合は、失格となる可能性があります。
・課題曲 1・2 はカメラを止めずに続けて順に演奏し、ひとつの動画に収録すること。

＜採点について＞

・採点は第一次試験合格者のみに対して行います。

＜その他注意事項＞

・**インターネット出願登録時に登録したメールアドレスで「@kcua.ac.jp」のドメインからのメールを受信できるように設定すること。**
・可能であれば、キャリアメール（NTT ドコモ、ソフトバンク、au 等）以外のメールアドレスを使用することが望ましい。
・動画の作成方法及び Dropbox の利用方法に関する問い合わせには一切応じません。

令和 9 年度（2027 年度）

音楽学部入学試験　第二次試験（音楽学専攻）

口頭試問（900点）

試 験 時 間：1 人 35 分程度（事前提出物に基づいたプレゼンテーション（15 分）と質疑応答（20 分程度））

実 施 方 法：プレゼンテーション形式は自由。

紙媒体の配布資料を使用する場合は、合計 5 部を各自で印刷して、当日持参すること。パソコンを用いてプレゼンテーションを行う場合には、PowerPoint、Google スライド、または PDF ファイルとして作成し、USB メモリに保存し、当日持参すること。パソコン、ディスプレイ（またはプロジェクター）、ケーブルは大学で用意する（持参したノートパソコン等の使用も可能とするが、その場合も発表資料を保存した USB メモリを用意しておくこと）。

注 意 事 項：当日は試験員の指示に従うとともに、以下を遵守すること。

・控室・試験室では、プレゼンテーションに必要な機材一台のみ使用を認める（ノートパソコン等については一台のみ使用可能。タブレット端末・スマートフォン等との併用は不可。また、大学が用意するパソコンを使用する場合には、他の機材の使用は不可）。

・控室・試験室でプレゼンテーションと関連した音を出す必要がある場合は、事前に教務学生課入試担当にメールまたは電話で申し出ること。事前に申し出のない場合には使用を認めないことがある。

・持参したノートパソコン等を使用する場合には、HDMI ケーブルでディスプレイと接続できるように準備すること。なお、持参したノートパソコン等は学内のネットワークに繋ぐことはできないため、オフラインでも動作することを確認しておくこと。

・大学で準備するパソコンの OS は Windows のため、Windows で動作しないソフトウェア(Apple 社の Keynote 等)の使用を希望する場合は自身のノートパソコン等を持参すること。その場合も Windows で動作する形式に変換した発表資料(PowerPoint、Google スライド、または PDF)を保存した USB メモリを用意しておくこと。